

岩国全14中学制服統一へ

ジェンダーレス／寒さ対策／コストダウン

岩国市立の全14中学校が2024年度の新生から制服をブレザーに統一する。性別に関係なくスラックスかスカートを選べる「ジェンダーレス」や、寒さ対策、発注規模の拡大によるコストダウンなどを考慮した。中学校校長会で協議し、全校が導入を決めた。

(川村奈菜)

新制服の上着は濃紺のブレザーで、下はチェック柄のスラックスかスカート。肩幅の広さなどはボタンを左右どちらでも留められ、男女の体格の違いを考慮し、



岩国市立の全中学校が来年度から採用するブレザーの制服を紹介する周東中の清寿光校長

スラックス・スカート選択 24年度から

男子がスカートをはいてもよい。兄弟姉妹や別の学校の生徒が再利用できるメリットもある。

現在の制服は、ブレザーの岩国西中を除く13中学校で男子は詰め襟、女子はセーラー服。校長会で「性差を感じにくい制服にして、多様な思いを持つ生徒に対応しよう」と意見が出て、コストダウンも考えて統一する案が浮上。22年2月、4校の校長と市教委の担当者で委員会を設け、新制服の検討を始めた。

市内の小学3年〜中学1年の児童生徒と保護者たちにアンケートし、現在の制服を変更することに反対の意見は1割程度にとどまった。性自認が定まらない「Xジェンダー」の市民からも制服のジェンダーレスについて意見を聞き、参考にした。

委員長の上田勝彦・玖珂中学校長は「制服にさまざまな思いを持つ生徒が自由に選択できるようにした」と説明する。ブレザーに襟章を着け、どの学校の生徒か分かるようにする。

性同一性障害学会で理事長を務める岡山大学院の中塚幹也教授は「戸籍上の性別は男性で性自認が異なるトランスジェンダーの生徒がスカートを選ぶのは比較的高ハードルが高く、周囲の受け入れ方が鍵となる。学校に限らず、社会全体で正しく理解を深める必要がある」と指摘する。

地域課題解決や教育振興で連携

山口大とNHKが協定



協定書に署名する谷沢学長と志賀局長

山口大とNHKは27日、包括連携協定を結んだ。互いの知見やノウハウを生かし、地域社会の課題解決や教育研究の振興を目指す。

防災、減災の啓発▽地域の社会的課題の解決と地域の社会的活性化▽研究活動の発展▽情報発信など8項目で連携、協力する。同大は、教育や研究にNHKの知見を活用。同放送局は地域課題の解決策を同大と共に考えて報道する。人材交流も検討している。

この日、山口市の同大吉田キャンパスで締結式があり、谷沢幸生学長(65)と志賀淳一局長(46)が協定書に署名した。谷沢学長は「地域の課題を発見して解決していきたい」、志賀局長は「培った経験を地域の員として共有し、発展につな

げたい」と話した。NHKが大学と包括連携協定を結ぶのは全国で4例目。(柳本真宏)

副町長に友田氏

平生町議会同意

平生町議会は27日、任期満了で退任する高木哲夫副町長(72)の後任に、友田隆建設課長(67)を充てる選任案に同意した。任期は7月1日から4年。

町議会はこのほか、1600万円の2023年度一般会計補正予算案など7議案を可決、監査委員と農業委員の選任案7件に同意し、定例会を閉会した。

友田 隆氏 88年町職員。地域振興課長などを経て、21年から建設課長。

法政大卒。57歳。宇佐木。